



リオ
豊田市矢作川研究所 月報

CONTENTS

- 竹の管理とタケノコ料理
- 今月の二枚
- 2002 矢作川 川会議速報
- 矢作川を語る座談会を終えて
- 研究所の調査風景

2002 June
No.50

豊田市矢作川研究所

〒471-0025

愛知県豊田市西町2-19 豊田市職員会館1F

TEL 0565-34-6860 FAX 0565-34-6028

homepage <http://www.hm.aitai.ne.jp/~yahagi/index.html> e-mail yahagi@hm.aitai.ne.jp

*Rioはホームページ上でもご覧になれます

竹の管理と タケノコ料理

河合良三

先日、静岡に行ったついでに富士竹類植物園に寄ってきました。若い研究員の方に竹（孟宗竹）の管理について聞くことができましたので紹介します。

1. 不要な竹や増えすぎた竹林を整理する方法

- ① 秋から冬に全伐する。（残す竹林と隣接している場合は地下茎の切断をしておく）。
- ② 春に出た筍は筍狩りですべてもらう。
- ③ 8月上旬に残っている竹をすべて地際から切る。そして、一カ月後に再び出た竹を切り、地上部の竹をすべてなくすこと。これで地下茎もしだいに枯れていく。
- ④ 竹林の跡地に実のなる雑木を植林する。この場合、竹林の土はpH4.5ぐらいと酸性なので、植え穴を少し大きく掘り、その穴で伏せ焼き方法による炭焼きをして、土づくりしてから植栽をする。

2. 残す竹林の拡大防止法

- ① 深さ1m、幅10~15cmのコンクリートの壁か、深さ1m、厚さ1.5~2mmのゴムシートを地中に埋設する。
- ② 竹林と隣接する土地の間を10mぐらいの幅で開け

ておく。そして、毎年1、2回（夏~秋）は草刈をし、出た竹を切る。

3. 伐竹の年齢と伐竹の時期

一番多く筍を出す地下茎の年齢は3年生で6年生以上になると急激に減少する。したがって、4年生以上の竹は伐採するとよい。

親竹の形状で、枝下が長く枝葉が茂ったものは同化作用が旺盛で、地下茎の成長が大きく、出筍が多くなる。逆に枝下が短く枝葉の少ない竹はよくない。伐竹の適期は、竹の特性からいって葉での同化作用が減り地下茎の成長が止まる11~12月ごろである（図1）。

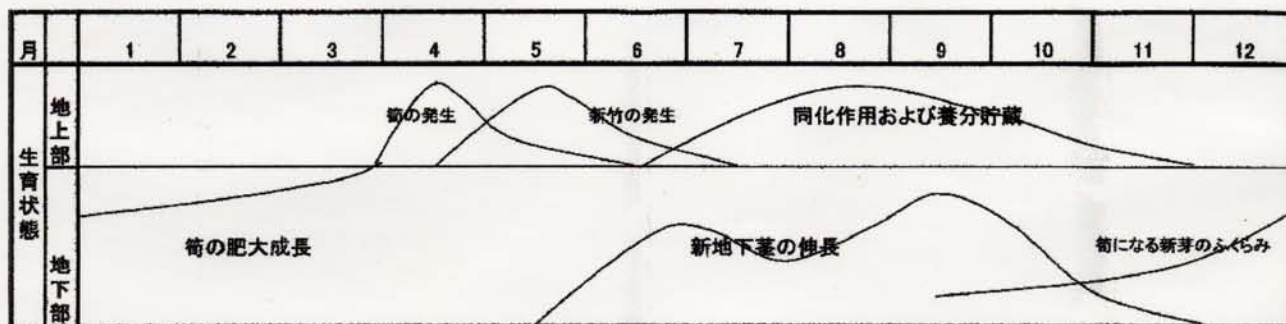
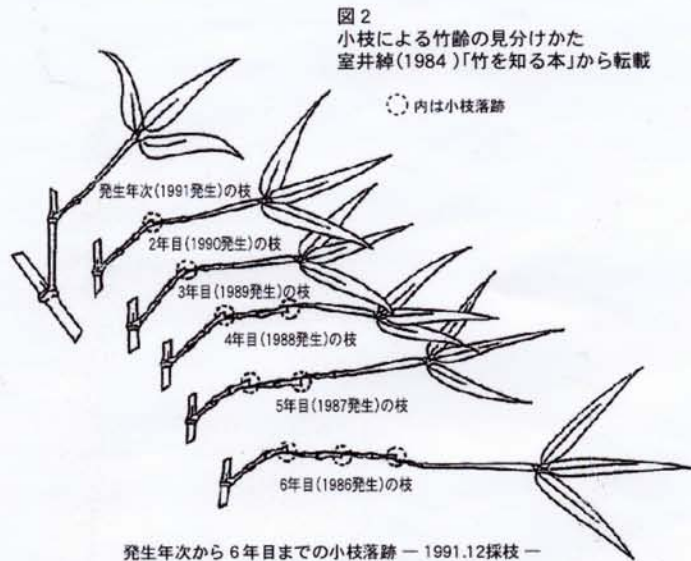


図1 「富士竹類植物園」作成資料から転載
「モウソウチクの生活史」

4. 親竹の見分け方

色彩で見分ける…1年生の稈は鮮緑色。2年生はやや緑色がうすれる。3年生は黄ばんでくる。4年生はずっと褐色がかってくる。

小枝による区別…図2を参照のこと。



発生年次から6年目までの小枝落跡 - 1991.12採枝 -

今、矢作川の竹藪に病気が大発生しています。この病気は、私の住んでいる足助町では「ジネンゴ」といって40～50年に一度大発生をして竹藪が全滅しています。発生場所は手入れをしていなくて古い竹がある場所に多く発生しています。症状は枝端から細長いつる性の枝が発生し、その基部からさらに小さい小枝が束生する。葉は萎縮し、小さい鱗片条となり葉鞘が膨れ、春から夏にかけて白色の菌塊を生じて5～6月に

熟して飛散をします。防除法は施肥を怠らないこと、古い竹を残さないことと胞子が飛散する3～4月に患部を伐採し、焼却することです。

さて、話は変わりますが、タケノコといえば酒の肴。いろいろな食べ方があります。

最初に、「コノサシ」といえばタケノコの刺身、白身ばかりで少々脂身がとぼしいが、ちゃんとした本ワサビでつるとやれば上品な公家味の刺身です。

次に、若竹煮。タケノコの上でかつおぶしが風にわずかにゆれて、ちょっといっぱい日本酒がほしくなります。

そして、タケノコをダイナミックに味わうには焚火焼。焚き火のなかに皮付きのタケノコを放り込み、皮がじわじわ焼けてもかまわず焼き続け、やがて焼きタケノコのかおりが漂ってきたら、それを取り出して一気に包丁でまっふたつ、しゅうしゅう湯気を吹き上げる半身に醤油をかけ、包丁でちぎって食べてしまいます。

一度やってみたいのはお陀仏焼。まず手頃なタケノコを見つけ、周囲の土を少し掘ります。その周りに小さな薪を立てかけてゆき、ほどよく薪で囲んだら合掌したのち火をつけます。そうして立ったままのタケノコを先ほどと同じような方法でこんがり焼いてすばやく食べてしまいます。

あらためて、竹で爛をつけて酒を飲むには、^{はらく}淡竹の新竹が一番、孟宗竹や真竹はいただけません。ちよいと酒のこくが違います。皆さんもいちどやってみてはいかがですか。竹も酒もいけますよ。

(かわい りょうぞう、

愛知県衣浦港工事事務所 岡崎出張所 所長)



◀モクスガニ

今月の二枚

ようこそ矢作川へ

2002年5月10日
 明治用水頭首工左岸魚道遡上調査にて
 (間野隆裕 撮影)

▼サツキマス



2002 矢作川

川会議

矢作川の日 平成14年5月11日(土)

2002 矢作川 川会議

とき 平成14年5月11日(土)

ところ 越戸公園(平戸橋/矢作川沿岸) 古川水辺公園(越戸/矢作川沿岸)

親子マス釣り大会
矢作川歴史探訪

シンポジウム
15:00-17:00

◆ 阿部夏丸氏
◆ 古川彰氏
◆ 成瀬順次氏
◆ ディスカッション
【矢作川の歴史と未来】
文芸春秋(18:00-)

平成14年5月11日(土)に、古川水辺公園(豊田市扶桑町)と対岸の越戸公園(同平戸橋町)を会場として、「2002矢作川『川会議』」が開催されました。これは、昨年度の川会議の決議「5月の第2土曜日は矢作川の日」を受けて開催された第2回目の川会議で、親子マス釣り大会、矢作川歴史探訪の各企画とシンポジウム(「矢作川学校」の開講宣言、基調講演:阿部夏丸氏、ディスカッション:矢作川への期待と展望)がおこなわれました。心配された雨も午前10時にはほほやみ、午後から吹いたさわやかな川風の中で、矢作川の未来を共に考えました。

親子マス釣り大会

9:00
12:00



さて、釣果は……?

矢作川歴史探訪

9:00
12:00

▶ 越戸公園→旧平戸橋跡→波岩→平戸橋→豊田市民芸館→本多記念館→矢作川漁協→勘八水管橋(魚道脇の小道)→(枝下用水の脇の道)→前田公園前→胸形神社→越戸公園 *パンフレット「矢作川歴史探訪」参照



平戸橋の歴史を波岩の上で聞く(左) 魚道に登るアユのそき込む(右)

シンポジウム

15:00
17:30



阿部夏丸
小説家



古川彰
関西学院大学教授



成瀬順次
ちごの口まちづくり協議会



新見克也
天然アユ調査会員



中条義氏
天然アユ調査会員



山本敏哉
矢作川研究所研究員



シンポジウム、ディスカッションの様子

川会議ご意見録

歴史探訪への思い 倉地 格

平成11年から「矢作川歴史探訪」の企画をおこなっています。今回は川会議担当者の方のご縁で、この企画を川会議で開催しました。人々は昔から川を通して経済や文化などを発展させて来ました。川沿いの建物や岩、神社などには、人と川との関わりを見ることが出来ます。川と人がもっともっといい関係になるために、矢作川の歴史を通して皆さんと考えていきたいと思っています。



倉地 格
アユ清流愛護会

今後の川会議に期待 阿部夏丸
川会議の中で提唱された、「川に子どもを戻す」という矢作川学校のはっきりした目的に共感を覚え、参加しました。川に子どもを戻すということは、僕自身も川が一番よくなる方法だと思っています。でも、川に戻す方法として取り上げられたのが、ニジマス釣りであることが気になりました。矢作川は、子どもが網で魚を掴まると、簡単に20種類以上も取れる川です。これは全国的に見てもすごいこと。でもそこでニジマス釣りでは、「魚は金払ってとればいいんだ」とそれだけの体験になってしまう。ぜひ、子どもが等身大で、たくさんの種類の魚とそして川と、ともに遊べるようになるきっかけを考えていくことを、これからの川会議の目的にしてほしいな、と思いました。

愛知県豊田土木事務所にて在職された方々約20名にお集りいただき、矢作川の河川行政に関わる様々な思い出話をお聞きしました（平成13年11月から平成14年1月にかけて5回）。矢作川とその流域内で管理や復旧や改良に仕事として携わった方々の現場での苦しい、辛い、また楽しい思い出話をたくさん聞いて、これは戦後の社会の発展、整備の歴史そのものだという思いがしました。また、それを文書にし、読み進むうちに私ども現代に生きるものが矢作川から水を自然を奪い、矢作川を変えてしまったのだと、痛感しました。歌の文句ではないけれど昔には返りません。矢作川は何も語らないけれど、もし口をきいたなら何と言うだろう。私は恐ろしくてよう聞けません。

板沢幸夫

矢作川を語る 座談会を終えて

矢作川はかつては豊かで実り多い川でありました。今は私ども現代人が環境までも収奪するばかりです。生き物の中で人間が一番偉いのだとしたらその自覚をもって責任をはたしてもらわなければ。

矢作川は排水路や浄化施設ではなく、自然の根幹をなすところです。今は皆さんが矢作川に高い関心を寄せるようになり、さまざまな行動、活動ができました。その一つとしてささやかですが、昔の矢作川のことを記録することができました。早く本にして皆さんの手元に届けたいと編集をがんばっています。

もうしばらくお待ちください。

（いたざわ ゆきお、
愛知県西三河建設事務所 総務課 主任専門員）

研究所の 調査風景

4月15日（月）

本年度から広沢川の河川改修工事（河川課施工）に伴う自然環境調査を行います。その現場を下見しました。籠川合流地点から上流に行くにつれ、河床の状況が砂から砂利、シキと



変化し多様な環境があることがわかりました。しかし堰によつて魚が遡上できない状況は何とかしたいものです。側道ではギフチョウが確認されるなど、里山

環境が残されておりうれしく思いました。（間野）

4月24日（水）

今年度から「川を生かしたまちづくり」という事業が始まりました。矢作川に残る自然を生かしたまちづくりの方法を考え、提言を行つていくための事業です。空中写真から、市内中心部の自然が主として枝下用水沿いに残っていることが分かったため、この日は現地調査の候補地として、白山神社から枝下用水に沿つて南下し、橋坪小北、地域医養セン

ター南東、西山公園東、平芝公園、妙見寺西、毘森公園、金谷町の三河線高架下、長興寺周辺、秋葉町、岩鼻古墳、水源公園の自然緑地を見て回りました。管理されなくなったコナラ林が殆どでしたが、街中に意外にまとまった緑が残されていたことを再確認し、驚きました。（洲崎）



樹木神社

編集後記

魚道からは、マス・カニ・アユの遡上の知らせ、水辺公園では川会議と、たくさんのイキモノ達が矢作川に集まる季節になりました。こんなよい季節に、RioはNo. 50を発行することができました。ご報告とともに、ご協力いただきました全ての方に心よりお礼申し上げます。これからも、矢作川情報をてんこ盛りでお届けしていきますので、どうぞよろしく願いいたします。（小）



1998.5発行
Rio No.1の表紙

ご意見・ご感想をお寄せください

Rioは再生紙(100%)を使用しています